

平成15年度 第8回（平成16年1月27日）図書館運営協議会 会議要旨

1. 出席者

運営協議会委員委員（9名）

小杉山会長・中多副会長・三輪委員・加藤委員・山田委員・奥津委員・
埜崎委員・日高委員・山本委員（欠席委員1名）矢口委員

図書館側委員

鹿島中央図書館長・坂井視聴覚係長・豊崎戸山図書館長

図書館事務局

佐藤管理係長・秋山管理係主査・東主任主事

2. 場所 中央図書館大会議室

3. 開会

【小杉山会長】

ただいまより第8回図書館運営協議会を開催いたします。

本日の議題は報告事項1件と協議事項1件です。

最初に、報告事項の「新宿区子ども読書活動推進計画（素案）」のパブリック・コメントの結果について、事務局から報告願います。

【秋山管理係主査】

12月16日から1月6日までパブリック・コメントを実施した結果、22人の方から多数のご意見をいただきました。現在、ご意見に対する区の考え方・回答案を検討中です。

結果は、3月25日の新宿区広報や図書館のホームページ等で公表いたします。

なお、12月19日から21日まで説明会を3日間開催し、計15人の方にご出席いただきました。

【小杉山会長】

報告事項について質疑を行います。ご意見、ご質問のある方はお願いします。

【加藤委員】

学校図書館に関する箇所が多い。図書館自体については？

【秋山管理係主査】

教育委員会関係については多数のご意見をいただきました。現在、学校関係、図書館関係、その他に区分し、調整を行っております。

【日高委員】

14・15年度の学校図書館スタッフサービスというのはどういうものでしょうか。

【佐藤管理係長】

学校図書館スタッフ制度は国の緊急地域雇用創出特別補助事業として2年間行われました。国からの補助金で実施してきましたが、平成15年度で終了となります。

【山田委員】

14・15年度の2年間、全小中学校に1名ずつ図書館スタッフが配置され、平均して週2日、一日6時間来てもらっています。図書館司書に相当する仕事です。担任が授業をする場合、授業の補助なども行っています。読書活動、図書館事業も充実するので、校長会としても継続を要望しています。また別に、兼任の司書教諭が15年度から小中学校に配置されることになりましたが、12学級以上の学校に配置されることになりました。新宿区は規模が小さいので12学級には満たない学校も多いのですが、7～8学級しかないところでも教育委員会の承認を得て司書教諭を置いています。

【鹿島委員】

今までのような予算を新宿区単独で負担することは難しいので、ボランティアを活用することを含めて考えています。2年間の事業としては現行の形は終了となります。

【小杉山会長】

次に、協議事項「区立図書館の理念・役割」の中間のまとめについて協議を行います。

なお、1月20日に学識経験者代表委員3人と事務局で小委員会を開催し、論点を整理させていただきました。この場で皆様とご一緒に協議していきたいと思っております。それでは事務局より本日の資料について説明してください。

【佐藤管理係長】

15年度は図書館の理念・役割について議論していただいておりますが、今年度中に中間報告のまとめに入ります。

「図書館運営協議会における中間論点整理（メモ）」について説明。
あくまでもタタキ台であるので、みなさんでご協議をお願いします。

【小杉山会長】

はじめに「図書館に期待される役割・機能」について、協議をお願いします。

【中多副会長】

生涯にわたってすべての住民を対象にする図書館ではありますが、小さいときの「子ども読書」がとても重要です。学習機会の提供に組み込まないで、「子どもの読書」については、独立した項目を立てていただきたい。

【佐藤管理係長】

たとえば、子どもサービスについて項目をつくるということでしょうか。

【中多副会長】

そうです。子どもへの読書を支援するという大きな役割ですので。

【三輪委員】

「学習機会の提供」のタイトルを変更するのはどうでしょうか。7割くらいは子どもについての話です。

【中多副会長】

子どもに読書の機会を提供し、生涯学習につなげていくような内容にしていきたい。

【山田委員】

子ども読書を「学習機会の提供」に入れてしまうことに疑問をもちました。
項目を別に立てるか、タイトルを変更し、それにふさわしい内容に変えるべきだと思います。

【鹿島委員】

子ども読書の重要性はよくわかります。小さな子どもから高齢者まで含めて生涯学習と捉えています。内容的な変更も含めて、項目については検討させていただきます。

【小杉山会長】

区民に期待される図書館、文化の拠点としての図書館について書かれていません。ここに書かれているのは図書館の機能についてだけです。視点を変えてみるといいのではないのでしょうか。

【鹿島委員】

「文化の拠点」については協議会でもそれほど議論されていません。

「地域の情報拠点としての図書館」の部分で、この辺を強調することで対応したいと考えます。

【中多副会長】

新宿が持っている文化を継承し、区民に普及、発展させるための参考として長崎県諫早市の図書館を紹介しました。諫早の図書館はギャラリーを備え、品格もあります。

文化的な創造を区民自ら行っていくための図書館であるべきです。学校との連携も発展させていく必要があります。

【小杉山会長】

図書館は知的コミュニケーションの場であります。知的財産が豊富にあるのが図書館です。

【鹿島委員】

知的財産をどう活用するのが大事です。

【埜崎委員】

人間のスタートは幼児期なので、その時期から本に親しみを持たせることが重要です。

合わせて親にも読書の大切さをアピールしてもらえるとよいと思います。

【山本委員】

「資料の収集・提供機能」ですが、図書館は入りづらい面もあり、それを理解していただく必要があります。展示、ポスター等文化的側面にも力を入れ、地域住民が行きやすい図書館を目指してほしいものです。

【中多副会長】

「図書館機能の高度化」に、国際子ども図書館との連携も加えていただきたい。

【小杉山会長】

次に、「中央図書館及び地域図書館の役割について」協議をお願いします。

【中多副会長】

中央館の役割で「知的活動の求心点」とはどのような意味ですか。

【鹿島委員】

中央館が各館の調整だけでなく、全館のサービスのあり方について方向性を示し、基本的なサービスのレベルを揃える役割を担っていることについて述べ、これを求心点という言葉で表しています。

【中多副会長】

図書館法第3条に則ったサービスの提供を踏まえた上で、新宿区の図書館の目標を表す必要があります。各地区館の役割を示した上での調整機構、また図書館以外で資料や情報を持っている機関との連携、センター機能が中央館に求められるのではないのでしょうか。

また、知的サービスに関わる広報活動を一本化し、図書館でまとめて広報活動を行うようにはできませんか。

【鹿島委員】

それは区立図書館の能力を超えています。それぞれの個々の専門性があって縦割り行政となっているので、それらすべてを網羅することは大変難しいのです。もちろん、情報提供やネットワークは必要だと考えています。

【三輪委員】

「学校図書館活動を支援する支援センター」について、何を支援するのが書かれていません。1行くらい追加して、支援のあり方について書いてください。

また、「児童コーナー、ヤングアダルトコーナーについては、それぞれの物理的条件の下でも必要」というのは、意味が取りにくく、必要性が伝わりにくいのではないのでしょうか。

【鹿島委員】

学校支援センターについては、おっしゃるとおりです。ヤングアダルトについては、地区館によっては場所的に難しいところもありますが、工夫をして、子ども読書活動推進計画により進めていきたいと考えています。

【加藤委員】

地域館の役割について。魅力ある地域館というのが、書かれています。読み取りにくい。地域館として、地域に相応しいサービスを提供する点を具体的に記述していただきたいものです。

【鹿島委員】

児童サービスはどこの地区館でもやっています。ここでは地区館の役割ですが、魅力ある図書館についてはニーズを調査して検討していく必要があります。

新館建設については、今後5年間はありません。そのことについてここで議論するのは適当ではないが、中央館の果たすべき役割についての議論は、将来の新館建設時に生かすことができると思います。そのための議論をしておく必要があります、基本的なあり方について協議・検討していると認識しています。

【奥津委員】

費用がかからずに出来ることしか行わないのですか。そういう制約がある中で、どういう協議ができるのですか。

【鹿島委員】

基本的なあり方について図書館運営協議会から提言をいただいた後、いつどういう計画でやるのか、財政状況もみながら行政としてどう対応するかは別の問題です。

【奥津委員】

オアシスという言葉が引っかかる。利用している図書館を考えるとオアシスにはほど遠い。

【中多副会長】

提言には、こうありたいという願いを入れたい。長崎県諫早市では、10 数年の積み上げがあつて図書館が完成した。オアシスというのは、人との出会い、情報、文化であり、リフレッシュして明日への活力、クリエイティブなものへとつなげていくこと。

いつでも行きたいような図書館が理想です。

【小杉山会長】

ひとつの施設を作るのに時間がかかります。池袋の芸術劇場は完成までに30年もかかりました。

【日高委員】

財政面の厳しさは理解できますが、区民にとっての図書館の重要性を訴えたい。

今年の1月6日に四谷図書館に図書返却に行ったら、「明けましておめでとうございます。」と挨拶され、嬉しかった。

【鹿島委員】

中央館は開館以来32年経過していてIT化を進めるにも施設の問題、また耐震の問題もあります。

【中多副会長】

職員が大切。職員の資質を高めるための研修等に、どこかで言及してほしい。情報ネットワークだけでなく、人的ネットワークも大事です。

【鹿島委員】

研修は、区政のどこの職場でも重視されています。総論の中で職員のごことは掲載しにくいですが、各論のスタンスになります。

【小杉山会長】

それでは、次に、「地域社会に支えられる図書館」と「図書館サービスの目標の設定」について、一緒に議論します。

【奥津委員】

国際化について。四谷図書館には外国の新聞雑誌はあるが、外国語を理解できる職員はいますか。ボランティアで対応するのはどうですか。

【鹿島委員】

図書館サポーター制度で取り入れていきたいと考えています。職員が全ての外国語に対応するのは難しいと思います。

【佐藤管理係長】

区内には約 28,000 人の外国人がいる。そのうち中国、韓国・朝鮮の方で約 7 割を占める。

広報課には外国語ができるスタッフがいます。

【秋山管理係主査】

現在、策定中の「新宿区子ども読書活動推進計画」では、次の 5 つの数値目標を設定することを検討しています。次回報告します。

- 1 区立小・中学校の児童・生徒の不読者率
- 2 区立小・中学校における朝の読書等の実施率
- 3 区立学校図書館図書標準の充足率
- 4 区立図書館の子どもの利用登録率
- 5 区立図書館における年間貸出冊数の増加

【三輪委員】

ボランティアは、図書館行政の補助要員ではなく、対等のパートナーとする理念がよいと思います。

例えば、図書の紛失の管理責任を図書館に求めるだけでなく、区民が自分たちの財産を自ら守るために解決する方法も検討する必要があります。

【鹿島委員】

今日は論点整理ということで、次回は、今までの 8 回分の検討経過も踏まえ、中間のまとめ（案）を提出し、議論していただくこととなります。

【小杉山会長】

本日の運営協議会を閉会します。

次回は、鹿島委員からあったように中間のまとめ（案）についてご協議していただきます。